

[第26回]

TAKADA 株式会社高田工業所

代表取締役社長 **高田 寿一郎** 氏

1940年創業の 産業プラントエンジニアリングのパイオニア ～時代の変化に対応し、更なる成長に向けて挑戦する～

株式会社高田工業所は、1940年に福岡県北九州市で創業した老舗産業プラントエンジニアリング企業であり、現在も同市に本社を構えています。

株式会社高田工業所は、主力事業である「プラント事業」に加えて、「プロジェクト事業」「設備診断事業」「装置事業」を新たな事業の柱としつつあります。

代表取締役社長の高田寿一郎様は、時代の変化に対応して、同社が創業100周年となる2040年を超えて成長し続ける礎を築くことが「社長の役割」である、とおっしゃいます。今回のインタビューでは、老舗企業の成長戦略について、高田寿一郎様からじっくりお話を伺いました。

劇画社史「大いなる群像」

— 御社のホームページを見て、まず始めに驚いたのが、劇画による社史「大いなる群像」が載っていたことです。劇画社史というのは、あまり見たことがないのですが、どうして作られたのか、ご説明いただけますか。

高田 1987年に、1990年の創業50周年に向けて21世紀を見据えたビジョンや社史を作るための委員会として、「21世紀委員会」というものが立ち上がり、私が委員長となりました。既に、当社には「25年史」と「40年史」というものがあったのですが、文字だけでなく、私自身読んだことがありませんでした。社史は、先輩たちの苦労を学ぶ貴重な資料であるにもかかわらず、これはもったいない、ということで、「読んでもらえる社史を作ろう」と考えたのが、「劇画社史」です。作画は、『空手バカ一代』で有名な影丸穰也さん



をお願いすることとし、シナリオに2年間、作画に1年間かけて、1994年に完成しました。当初、社員用に2,000冊、お客様用に2,000冊、ストックに1,000冊の計5,000冊を作ったのですが、お客様から「もっと欲しい」といったご要望を頂き、増刷いたしました。現在は、インターネットの時代ですので、当社のホームページに載せて、より多くの方に読んでいただきたいと思います。

創業の精神は 「現場作業員の地位向上」

—そこで、創業から現在に至るまでの御社の「経営理念」をお伺いしたいと思います。まず、御社の社是である「純情・情熱・希望」というフレーズについて、お伺いしたいと思います。これは、創業以来の社是なのでしょうが、「情熱」と「希望」というのは分かるのですが、「純情」という言葉は、社是ではあまり見ないような気がします。

高田 はい。この社是は、創業者である祖父がつくったものです。この社是の3つの言葉（純情、情熱、希望）をどのように解釈するかは、見た人の判断に委ねていいと思います。ただし、私の解釈としては、「仕事をする上で駆け引きもあり、また、約束してもできないこともある。しかし、人間として踏み外すべきでないことは当然ある」というのが、「純情」の意味ではないか、と思っています。

—よく分かりました。ところで、御社の創業者であるご祖父様は、どのような方だったのですか。

高田 1940年に当社を創業した祖父は、溶接工でした。当時、現場の作業員の地位は低かったため、祖父は、「自分たちのやっている仕事は、社会には絶対必要なことだということを、世の中から認められたい」という信念で、会社を立ち上げました。したがって、同業他社で



は、現場作業員をアウトソーシングしているところが多いですが、当社では、職人を雇い、または職人に育てて自社の社員として雇用しています。こうしたやり方には、メリットもデメリットもあるのですが、これが当社の創業の精神に基づくやり方です。

—なるほど。御社には、現場の状況を熟知した社員の方が数多くおられ、その意味で、同業他社に依頼するより安心ということなのでしょうね。

高田 当社の現在の主力事業である「プラント事業」は、更に「建設事業」と「メンテナンス事業」に分かれるのですが、特にメンテナンスの最前線は、どうしても人手に頼らざるを得ません。もちろん、メンテナンスについても、DXを導入するなどしてできる限り省力化を図っていますが、プラントは一品一様で全部違いますから、プラントのメンテナンスは、本来、機械化になじみにくいものだと思います。少子高齢化の中で、当社で「技能職」と呼んでいる現場の作業員を確保することは困難になりつつあり、アウトソーシングも一部取り入れざるを得ませんが、「職人は自社で賄う」という会社方針は、今後とも維持してまいります。

北九州市に 本社を置き続ける理由

高田 北九州市に本社を置き続けている理由の一つも、「採用に有利」ということがあります。お客様の本社は、ほぼ全て東京ですし、売上げも関東地区が一番大きいのですが、東京に本社を移してしまうと、当社は全く目立たなくなってしまうので、少なくとも、私が社長でいる間は、本社を移すつもりはありません。

普段北九州市にいて、たまに出張で東京を見る方が、日本経済について正しい判断ができるとも思っています。例えば、東京では、タクシーの台数があまり減っていないようですが、北九州市では、コロナ禍による外出自粛の結果、多くのタクシードライバーが廃業し、現在はタクシー不足が深刻化しています。「東京＝日本」ではありません。

私は、かつて東京で暮らしたこともありますが、正直言って、北九州市の方が住みやすい、と思っています。例えば、食事や飲みに出かけるときに、近所においしくて安い店が数多くありますし、ゴルフ場まで何時間もかけて行く、といったこともありません。

当社は、BtoBのビジネスを行っているため、これまではあまり「広報・PR活動」は行ってこなかったのですが、北九州市民の皆様当社の存在を知っていただき、社員の士気高揚にもつなげるために、最近様々な広告活動を始めました。例えば、北九州市内の路線バスに、ラッピングバスを2台走らせておりますし、「福岡PayPayドーム」にも広告を出しています。更に、本年7月から



北九州市内を走るラッピングバス

は、羽田空港第一ターミナルにも看板を出しました。北九州市と東京を結んでいるスターフライヤー便が使う搭乗口近くにありますので、ご覧いただければ幸いです。

将来的には、北九州市内に用地を確保して、本社を移転したいと思っています。現在の本社は、3階建ての低い建物で、鉄道や国道から全く見えません。街中に出て、もっと目立つ本社にしたいと思っています。新しいビルに移れば、社員の士気も上がるでしょうし、一般市民の方々に当社の存在を認識してもらいやすくなります。

創業100周年を超えて 成長し続ける企業へ

——ここで、高田様から、「高田工業所の将来像」について、お話を承りたいと思います。

高田 当社のビジネスは、「プラント事業」に加えて、「プロジェクト事業」「設備診断事業」「装置事業」の4本柱としていますが、現状では「プラント事業」が創業以来の事業であり、売上に占める割合も圧倒的です。ただし、今後とも「プラント事業」だけで当社が成長を続けられるかと言えば、「難しい」と言わざるを得ません。先ほども申し上げたとおり、「プラント事業」、特にメンテナンスは、少子高齢化の中で、従事する「技能職」を確保することが難しくなっているからです。したがって、「プラント事業」によって利益が上げられているうちに、新たなビジネスの柱を構築しなければならないと考え、「プロジェクト事業」「設備診断事業」「装置事業」という3つの事業を立ち上げました。どれか一つでもいいので、早期に「プラント事業」と並ぶ事業の柱にしたい、と思っております。

今のままだと、2040年の100周年の頃までは、当社は生き残っていると思いますが、そこから先は分かりません。社長の役割は、一番高いところから先を見通して、方向性を示すことだと考えております。事業が立ち行か



グリーンを配し、シーズンにはクリスマスツリーが飾られる親しみやすいエントランス

くなってから、「新しいことを考えろ」と言っても無理な話ですから、今から考えなければなりません。新しい事業を考える際に重要なことは、「プラント事業で培われた社風、風土」を一度捨て去ることだと思っています。社員の意識を変えるために、私は、「服装はオフィスカジュアルでOK」「本社のロビーは今風に変更」「社内報は写真中心」といった改革を行いました。

更に、2年前に、中堅・若手のちょっと面白そうな人材を集めて「2040みらいプロジェクト」というものを立ち上げました。先ほど申し上げたとおり、本来は社長以下経営陣が、会社の中で誰よりも将来を見通さなければなりません。したがって、責任放棄するわけではありませんが、2040年以降も、まだ会社で働いている中堅・若手に、「君たちも何か案を出してよ」と言って集

めたのが、「2040みらいプロジェクト」です。様々な意見が出されましたが、例えば「役員と話す機会がないので、是非つくってほしい」という意見が出されました。この提案を受けて、現在、様々な部署に役員が出向き、酒を飲みながら忌憚のない話をする、といったことをしています。このプロジェクトは一区切りついたのですが、このまま終わらせるのはもったいない、ということになり、メンバーを入れ替えて、常設の組織として「組織活性化委員会」というものを設置して、今でも活動をしています。

座右の銘は 「談笑決事(だんしょうけつじ)」

——ここで、高田様ご自身のことをお話ししたいと思います。高田様は、座右の銘といったものをお持ちでしょうか



高田 寿一郎 (ただか じゅいちろう)

1961年福岡県北九州市に生まれる。
早稲田大学教育学部、米国エルミラカレッジ卒。87年千代田化工建設株式会社入社。90年株式会社高田工業所入社
統括本部受注管理部長、91年6月取締役、94年常務取締役、95年代表取締役副社長。2001年4月代表取締役社長就任、現在に至る。

高田 「談笑決事（だんしょうけつじ）」という言葉は、常日頃私が心掛けていることで、私の部屋に額に入れて掛けてあります。この額は、私の祖父と父が直接師事した陽明学の泰斗である安岡正篤先生が直筆で書かれたもので、その言葉の意味するところは、「物事を決めるのに喧々諤々言い合っただけの結論は、大概ろくなものではない。お互い談笑しながら余裕を持って決めたことの方が正しい」というものです。私としては、物事を決める時だけでなく、常に余裕を持つべきだ、という意味に理解しております。会社の中で、人事権を持っているのは社長だけです。したがって、仮に部下が失敗したとしても、その部下を任命したのは社長である私ですから、「自分の見る目がなかった」と考えるしかない、と思います。そう考えると、腹が立つこともなくなります。会社内で怒った記憶はありません。

趣味は 100kmウォーキング

— 毎日お忙しいことと思うのですが、どのようなご趣味をお持ちですか。

高田 毎年、100kmウォークという大会に出ています。学生時代は水泳をやっていた、身体を動かすことは好きだったのですが、2013年の元旦から禁煙を始めたのがきっかけで、甘いものを食べすぎ、ちょっと太ってしまいました。ダイエットのためにランニングを始めるつもりだったのですが、いきなりは無理かもしれないと思い、ウォーキングを始めました。ただ歩くだけでは長続きしないかなと思っていた中で、地元の友人が100kmウォークにチャレンジしていることを思い出し、「自分もチャレンジしよう」と思って参加したのがきっかけです。毎年10月に実施される大会で、福岡県の行橋市から大分県の別府市までの100kmを歩きます。制限時間は26時間ですが、私は記録を狙っているので、頑張って歩き続けます。自己ベストは、16時間57分で、平均速度は時速5.94kmでした。毎回、ゴールした時は、「もう絶対やらない、もうこれで終わりにしよう」と思うのですが、毎年参加しています。

— すごい体力ですね。本日は、お忙しい中、大変ありがとうございました。



インタビュー後記

高田様にお会いした第一印象は、「穏やかな方」というものでした。実際お話を伺っていく中で、「会社内で怒った記憶がない」とお聞きし、「この方の下なら、部下の皆さんは働きやすいだろうな」と思いました。もちろん、経営者として厳しく指導されることもあるのですが、話し方ひとつで、受ける印象は大きく異なると思います。また、「社長は会社で最も先を見通しているべき」というご発言には、社員の皆様に対する社長としての責任感を強く感じました。

更に、「自分が社長である限りは、本社は北九州市から移転しない」というお話には、高田様の「北九州愛」を感じました。私も何回か北九州市を訪問しましたが、大変住みやすい街だろうな、と思います。

最後に、100kmウォークへの参加は、ただただ感心するばかりです。インタビュー後に、YouTubeで大会の様子を見たのですが、過酷すぎて、私は参加できません。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一

企業データ

社 名：株式会社高田工業所
事 業 内 容：総合プラント建設業、保全工事業
創 業：1940年9月
所 在 地：福岡県北九州市八幡西区築地町 1-1
従 業 員 数：1,448名（2023年4月現在）
ホームページ：<https://www.takada.co.jp/>

